

中村欣一郎市長の

# 山椒は小粒でも…

## 植木鉢の上手な売り方



私は定期的にリサイクルパークに通っています。なぜ定期的かというところ、生ごみ堆肥化のグループに入っており、自宅で生ごみを堆肥に育てるケース「ひなたぼっこ」がいつぱいになると、2〜3週間に一度自身の総入れ替えにパークへ行くからです。

リサイクルパークでは、可燃ごみ、特定家電、粗大ごみ以外のごみを、ほぼ毎日(月曜定休、盆と正月は休み)出すことができます。いや、リサイクルとして回っていくので、ごみではなく資源ですね。新聞、雑誌、容器包装系のものから、電池、電球、陶器、ガラス、びん、缶、小型家電…。車ならドライブスルー方式で、約14種類の分別に従い、持ち込んだ各自が置いていきます。

また、進物品や引き出物の食器セット、鍋、新品に近い古着、雑貨、本なども引き取り、「もったいないやん」というコーナーを作り、安価に販売し、リユースの取り組みに貢献しています。



ドライブスルーの様子

もったいないやんには、植木鉢も結構な数が集まっています。以前は、パーク建屋の軒下に無造作に積み重ねて置いてあるだけでした。それが、先月訪れてみると、なんと一番目立つところに平置きされ、しかも値段まで貼られています。もちろん安価です。

ないのはちよつと勇気がいりませう。でも、その日は明るいところへ広げて、値段シールも貼ってありました。早速たくさん売れたそうです。私は生憎にも「これに花木を植えて付加価値を付けたらもっと買いやすくなりますよ」とアドバイスしたつもりが、「植えたのあるよ。1000円やで。市長室にどうや？」と言われてしまい、一本取られてしまいました。

このパークは、市が施設を作り、NPOが運営を担っています。市外、県外、また海外からの視察も何度も来られています。変な言い方ですが、どうやら私が思う以上に時代を先取りしたユニークな施設だとだんだん分かってきました。まだ利用されたことのないみなさん、一度訪れてみたいことにはそれこそ「もったいないやん」。



目立つところに平置きされた植木鉢



Vol.224

市民課人権・市民交流係  
☎ 1126

### ストックホルム症候群とドメスティックバイオレンス

1973年、スウェーデンのストックホルムで銀行強盗人質立てこもり事件が発生しました。人質解放後、犯人が寝ている間に人質が警察に銃を向ける、人質が犯人をかばい警察に非協力的な証言を行うなどの行動が判明し、犯人と人質との間に生まれた心理的つながりや反応は「ストックホルム症候群」と呼ばれました。

人質は、死ぬかもしれないという状況に置かれ、犯人から食べ物をもらう、トイレに行く許可を得るなどするうちに、犯人の小さな親切に感謝し、好意的な印象を抱くようになりました。犯人側も人質に心を許すようになり、次第に犯人と人質の間に心理的なつながりが生まれていったのです。

恐怖を感じる危機的状況に直面すると「闘争・逃走(Fight or Flight)」反応を示すと、1929年に生理学者であるキヤノンが提唱しています。動物が敵に襲われそうになった時、闘つか逃げるかを判断するというものです。他に、恐怖で体が固まる「凍結(Freeze)」反応、脅威に屈服し自身を無害に見せる「放棄(Surrender)」反応が提唱されています。闘うことも逃げることもできず、体が凍りついて動けなくなり、相手に従うことで被害を最小限に抑えようとした結果、被害者が加害者をかばうような言動を見せる場合があります。これは、恐怖に直面すれば、誰にでも起こる反応なのです。

配偶者や恋人など親密な関係にある、またはあつた者から振るわれる暴力「ドメスティックバイオレンス」でも、このような反応が生じることがあります。相手の機嫌を損ねるのを恐れ、自分の気持ちと言えなくなり、自尊心を奪われ、無力感に襲われます。

11月12日から25日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。ひとりで悩まず、まずは相談してみませんか。